

全日本年金者組合 大阪府本部
〒530-0041
大阪市北区天神橋1-13-15
TEL06[6354]7207
FAX06[6354]7746
Eメール
info@o-nenkin.com

年金者大阪 しんぶん

【スローガン】
楽しみ7分、活動3分
をいつも心に、仲間の
輪を広げよう

ロシアは侵略戦争をやめよ！ 国は物価高騰に見合うよう年金を引き上げよ！ 私たちは大阪の「カジノ中止」を諦めない！



生き生き人生

和田 勇夫さん (72歳) 吹田支部

目標に向け懸命に 自然を知る事が大事

60歳の定年退職までに、日本百名山を64座、二百名山を12座、三百名山を23座の、計99座登った。残りの201座を体力のある70歳までの10年間で登りきる目標を立てた。結果、10年5カ月間で踏破した。最後の山は2021年8月5日に登頂した神威岳(北海道)だった。日本三百名山踏破の瞬間だ。目標から5ヶ月オーバーしたが、天候、

季節、その前に登ったカミエクウチカウシ山で他グループの遭難や台風の影響されたそうだった。勇夫さんは、熊本生まれ。山登りのきっかけは、生家近くにある小岱山に友達に誘われて登り「山は楽しい！」と思ったこと。また、大阪で教員になつて吹田に来て、喘息にかかり、その克服のために本格的な登山を始めたといい。

妻の弥生さんは勇夫さんのことを「少しもじつとしていない」と言っている。それぞれ好きなことをやって、互いに協力しながら生活してきた。子どもは3人で、今は成人しそれぞれの人生を歩んでいる。

年金者組合に入ってから2年たった。勇夫さんが「書道」を習いに行っているところ、年金者組合吹田支部支部長の辻口隆さんが同じく習いに来ていて、「今、年金が下げられていて大変だ。年金者組合に入って欲しい」と誘われ、入会したそうだった。勇夫さんは現在「木工」の工房で、指導員として週1日働いている。現役の時「遊びと手の労働研究会」に入っていた関係で、ものづくりが好きだ。家具の修理、季節ごとのおもちゃ作りなどをやっているそう。

勇夫さんは「やっぱ、自分で目標なりを見つけてやってきたのが良かった。何事も一生懸命やってきた。壁もあつたけれど、乗り越えてこれた。山を深く知ること、恐れを克服した。自然を知れば知るほど、理解するほど怖さはなくなっていく。三百名山をやり上げたので、これからも山の仲間といっしょに活動し、国内旅行も楽しみたい」と元氣いっぱい。

取材 長江勝・江川信雄

試金石

友人の大学4年生になる娘さんへ最近自衛隊から就職説明会の案内が郵送されてきた。現住所に住民登録をして1年にもならないので友人は気味が悪いと驚いていた。自衛隊への「名簿」提出の自治体は急増しており、全国で過半数を超えている。大阪市は19年度から応じているのでそれが理由と思われる。21年度の自衛官中途退職は前年比35%増の5,742人、内閣府調査の日本が侵略された場合、自衛隊に志願すると答えた人は過去最低に近い4.7%です。軍事費を倍増しても隊員が集まらなければと焦りがあるのでしようか。憲法改正で自衛隊を合法化すれば徴兵制が現実化する。マイナンバーに各種データを紐付けすれば徴兵が容易なことも透けて見える。(K・I)



参考写真

物価高騰に見合う年金引き上げを

2023年の食品値上げ 累計4425品目

平均値上げ率 17%

節約の日々で不安

今、日本では65歳以上の女性の一人暮らしの半数は貧困層だと言われています。私も実感しています。2年前まで兄と二人で暮らしていましたが兄が施設に入りましたので、今は一人です。兄と暮らしていた時は、二人で生活費を折半して、兄の年金の方が多かったのですが、少しだけ多く出してもらっていました。

今は私の年金だけで生活をしていきます。やはり厳しく、マンシヨンの管理費や光熱費は一人暮らしでも半分になるわけでもなく、本当に堪えます。年金は下がり、物価の値上がりでこまめに電気を消す、買い物に行く回数減らし、行っても必要最小限のものしか買わないなどの節約をします。国民健康保険料、介護保険料は上がるし、これからどうい生活になるのかと考えると不安になります。

北支部 田中 悦子

介護リアル

今回は、義父(89)を自宅で介護して5年になるSさん(70)です。義父は元大工で80歳を過ぎてても働き、器用で明るく、人当たりもやわらかで近隣からの評判はとて

も良かったらしい。しかし家の中では、酒と博打が好きで義母は長年とても苦労をしたとのこと。82歳の時、酒屋から出て来たところ車と接触事故を起こし車イス生活となる。義母は、11年前に他界し義父は、和歌山県某市で一人暮らしを続けていたがSさんの夫が同居を持ちかけ現在に至る。

車と接触事故

口にすること。同居を始めてもう5年以上経っているというのに。車イス生活になつてから一度も顔を見せない義妹A子さん。言いたい事は一ぱいある義父にも。

一番辛いこと

私は 幸子です

コノ字に並ぶ2階建て住宅の右端。1階は、義父、2階はSさん夫婦の住居。週3回のデイサービス、ヘルパーさんの協力で何とか日々をクリアしている。でも今なにな。



(取材 機関紙部)

年金相談

なぜ「社会的養育部分」として、国と資本側に公的年金制度の財源負担責任があるのか (4月号の続き)

資本主義社会では、労働者は労働力を雇用主(資本側)に売って得る賃金で生活しています。労働(生産活動)で新たな生み出された「富」は、資本側が利潤として確保します。

一方、労働者は、労働力の値段としての賃金は受け取りますが、新たに生み出された「富」の分配はない搾取関係の中に生きています。生活の中で、疾病、介護、失業、定年退職などの生活問題「事故」に遭遇します。賃金には、これらの「事故」に対応するだけのものは含まれていません。生活「事故」による生活困難、貧困問題の発生原因は、資本主義的搾取にあります。資本蓄積の対極に貧困があります。その解決を自己責任に帰せません。ここに社会を統括している国と資本の側に財源負担責任の根拠があります。資本主義の三面競争(資本家相互、労働者相互、資本家と労働者間の競争)の苦闘の中から、労働者は「自助努力」の幻想を乗り越えて、「集団(連帯的自助努力)としての労働運動、社会運動を闘い、「富の再分配」としての社会保障を形成していきました。

日本の年金制度の問題点(6) 資本主義社会での労働者は

「再分配」の拡大は「自己責任」としての労働者負担分を、どれだけ国、資本の社会的責任、「社会的扶養」に拡大していくかにかかっています。(次号に続く)

社会保障部